

2020年6月12日

各位

太陽生命保険株式会社  
代表取締役社長 副島 直樹  
東京都中央区日本橋2丁目7番1号



## 太陽生命、太陽生命少子高齢社会研究所と共同で 「認知症予防に関する行動・意識調査」を実施

T&D保険グループの太陽生命保険株式会社（社長 副島直樹）は、当社の子会社である太陽生命少子高齢社会研究所（以下、「研究所」）と共同で、認知症予防に関する継続調査を開始しました。

今般、6月14日の「認知症予防の日」にあわせ、本調査から、「MCIスクリーニング検査」<sup>(※)</sup>の受診結果の状況と認知症予防に関する行動・意識についてとりまとめを行いましたのでお知らせいたします。

厚生労働省によると、2025年には65歳以上のシニア層の約5人に1人が認知症になるとされており、認知症への対応が社会的に大きな課題となっています。当社ではそうした社会的課題に応えるため、2016年6月より「従業員」「お客様」「社会」のすべてを元気にする取り組み、「太陽の元気プロジェクト」を推進しています。

当プロジェクトの一環として、2018年10月に「ひまわり認知症予防保険」を発売し、2020年5月末時点で11万件以上のご契約をいただいております。あわせて、お客様には、認知症の前段階であるMCI（軽度認知障害）のリスクを測定できる「MCIスクリーニング検査」の受診をお勧めするとともに、受診された方にアンケートへのご協力をお願いしており、すでに約900件の回答をいただいております。

アンケートには、今回集計対象とした行動・意識に関する項目以外に、生活環境、生活習慣、既往症等のさまざまな項目が含まれております。今後は、当社の保有する契約関連のビッグデータ等を組み合わせた分析を進めます。あわせて、分析で得られた傾向から、学術機関等との共同研究等を通じて新たな知見を獲得し、新商品・サービスとしてお客様にお届けすることで、社会的課題の解決への貢献を図ってまいります。

### ■調査実施概要（集計結果は別紙を参照）

- ・アンケート名：MCI検査受診者アンケート
- ・調査方法：郵送・オンラインによるアンケート調査
- ・有効回答数：870件
- ・設問数：67問
- ・対象者：MCIスクリーニング検査を受診したお客様のうち、アンケートを希望された方

(※)株式会社MCBIが提供する軽度認知障害（MCI）のリスクを早期発見する血液検査サービスです。



## ○株式会社MCBIが提供する軽度認知障害（MCI）を早期発見する血液検査サービスについて

- ・ MCIスクリーニング検査は、認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）のリスクを判定する血液検査です。
- ・ 軽度認知障害（MCI）とは、健常者と認知症の中間の段階を指します。日常生活に支障はありませんが、そのまま過ごすと認知症に進行する可能性が高い状態です。最近の研究では軽度認知障害（MCI）の段階で適切な予防や治療を行えば、認知症の発症を防ぐことや遅らせることができると分かっています。
- ・ 認知症の中でも最も多いアルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）は、発症する約20年前から主な原因物質であるアミロイドベータペプチドが脳に溜まり始め、神経細胞を破壊することで発症すると考えられています。MCIスクリーニング検査は、アミロイドベータペプチドの排除や毒性を弱める機能を持つ血液中の3つのタンパク質を調べることで、MCIのリスクを判定します。

## ○MCIスクリーニング検査におけるリスク判定について

- ・ リスク判定は4段階あります。

A	MCIのリスクはほぼありません。 今後も健康的な生活を心がけましょう。
B	MCIのリスクは低めです。 健康的な生活を意識して、MCIのリスクを減らしましょう。
C	MCIのリスクは中程度です。 生活習慣を見直し、直ちに予防に取り組みましょう。 物忘れなどで気になることがありましたら、専門医に診てもらいましょう。
D	MCIのリスクは高めです。 専門医による詳細な検査・診断を受けられることをおすすめします。

## ■アンケート回答の分布（属性別）

### 性別/年代別

	計	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
男性	203	1	1	13	40	107	41
女性	667	1	7	61	218	311	69
合計	870	2	8	74	258	418	110
構成比		0.2%	0.9%	8.5%	29.7%	48.0%	12.6%

### 性別/判定結果別

- ・概ね4人に3人の方は、MC I のリスクが低い（A・B判定）という判定結果となった。
- ・概ね4人に1人の方は、生活習慣の見直しが必要な状態（C・D判定）であり、そのうち約4割の方は、医師の診察が推奨される状態（D判定）であった。

	計	A	B	C	D
男性	203	105	38	38	22
女性	667	347	153	108	59
合計	870	452	191	146	81
構成比		52.0%	22.0%	16.8%	9.3%

### 年代別/判定結果別

- ・50代と60代は、約80%がA・B評価となっている。
- ・年齢が上がるとC・D評価の割合が増加し、70代と80代では約30%となっている。

#### ①年代別 検査結果分布（当社実績） 50～80代

	50代	60代	70代	80代
A	56.8%	54.3%	49.3%	53.6%
	(-5%)	(-3%)	(-2%)	(+14%)
B	28.4%	26.0%	19.9%	17.3%
	(+3%)	(-0%)	(-5%)	(-6%)
C	10.8%	14.0%	18.9%	18.2%
	(-0%)	(+1%)	(+4%)	(-1%)
D	4.1%	5.8%	12.0%	10.9%
	(+2%)	(+2%)	(+3%)	(-7%)
計	8.5%	29.7%	48.0%	12.6%

#### ②（参考）MCBI社の検査結果

	50代	60代	70代	80代
A	62.0%	57.0%	51.0%	40.0%
B	25.0%	26.0%	25.0%	23.0%
C	11.0%	13.0%	15.0%	19.0%
D	2.0%	4.0%	9.0%	18.0%

※当社の検査実績除く約3万人のデータ

※下段はMCBI社の検査結果との差（①-②）

※合計欄は、アンケート回答総数870に対する割合

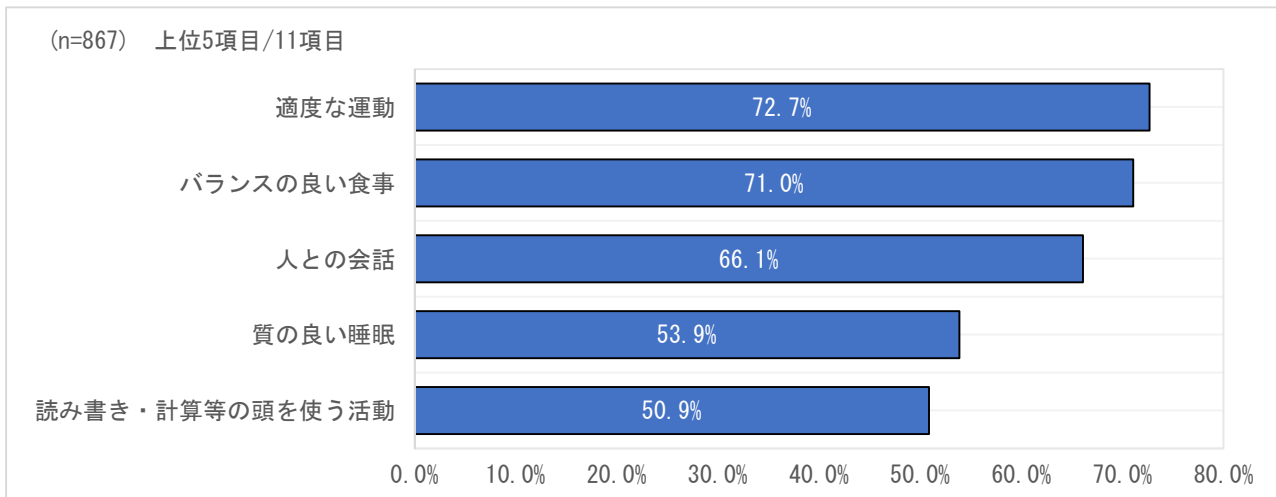
## 【別紙】アンケート回答の集計結果

以下の内容は現時点の集計結果の抜粋であり、統計的な検証を行ったものではありません。今後、データ収集をさらに進め、当社が保有する給付情報等のビッグデータを活用し分析を行うとともに、特定の傾向と思われるものについては、学術機関等との連携等による研究を検討する予定です。

### ① アンケート回答者全体について

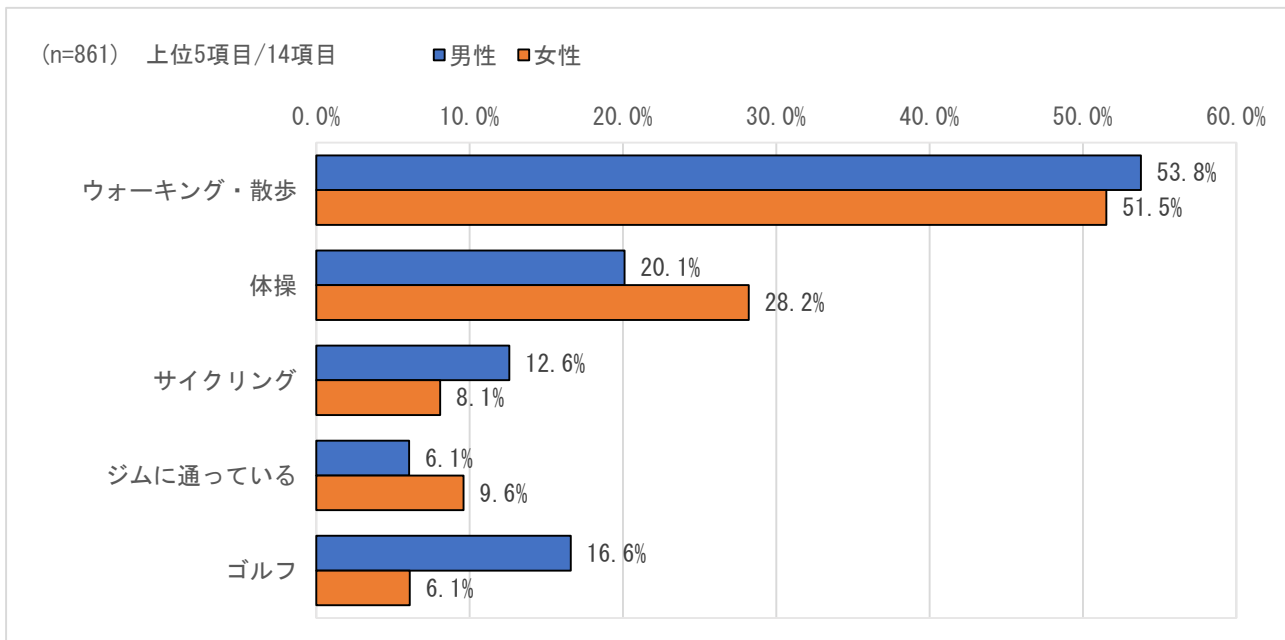
○認知症予防に向けた取り組みについて、「適度な運動」が約7割と最も多く、「バランスの良い食事」、「人との会話」「質の良い睡眠」「読み書き・計算等の頭を使う運動」の順で続く結果となった。

**認知症予防に向けて取り組んでいることについて、あてはまるものを5つまで選んでください**



○習慣的に取り組んでいる運動は、「ウォーキング・散歩」が約5割と最も多く、「体操」「サイクリング」「ジム」「ゴルフ」の順で続く結果となった。

**習慣的に取り組んでいる運動について、あてはまるものを5つまで選んでください**



② MCI のリスクが高い方と低い方の比較・特徴

	MC I リスクの低い方 (A判定)	MC I リスクの高い方 (D判定)
睡眠	○ 約 7 割の方が、睡眠で休養が十分取れていると考えている。	○ MC I 検査結果が前回より悪化した方の約 7 割が、睡眠に問題があると考えている。
運動	○ MC I 検査結果が前回より改善した方の約 3 割が、適度な運動が理由と考えている。	○ 約 3 割の方が、運動習慣がほとんどない。
食生活	○ 約 7 割の方が、食生活において「塩分」に気を付けている。	○ 約 3 割の方が、一人で食事を摂っている。
体重	○ 約 8 割の方が、直近 1 年間で±3kg 以上の体重増減がなかった。	○ 約 4 割の方が、直近 1 年間で±3kg 以上の体重増減があった。
既往症	(設問なし)	○ 約 5 割の方が高血圧、約 2 割の方が糖尿病・脂質異常症の既往症がある。
もの忘れ	(設問なし)	○ 約 6 割の方が、財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがある。 ○ 約 5 割の方が、5 分前に聞いた話を思い出せないことがある。
家族構成	(設問なし)	○ 約 3 割の方が、親・祖父母等の親族に認知症と診断された方がいる。

今後も他の項目を含め継続してデータ収集を進め、さらなる調査・分析を行ってまいります。

以 上

<転載・引用について>

本調査レポートの著作権は、太陽生命保険株式会社が保有します。

本調査レポートの内容を転載・引用する場合には、出所として当社名（太陽生命保険株式会社）、調査名称および調査時期を明記してご利用ください。

■転載・引用に関する注意事項

以下の行為は禁止いたします。

- ・本レポートの一部または全部を改変すること
- ・本レポートの一部または全部を販売・出版すること
- ・出所を明記せずに転載・引用を行うこと
- ・公序良俗に反する利用や違法行為につながる可能性がある利用を行うこと

※転載・引用されたことにより、利用者または第三者に損害その他トラブルが発生した場合、当社は一切その責任を負いません。

※この利用ルールは、著作権法上認められている引用などの利用について、制限するものではありません。